



しのだ つとむ 篠田 力 さん

世界マスターズ水泳2025シンガポール大会で
400m自由形で金メダルなど、3つのメダルを獲得
生涯スイマー、挑戦の記録



▲世界マスターズ水泳・400m自由形のメダリストたち。篠田さんは栄えあるセンターポジション。

水と共に歩む人生

小学生の頃は、体が弱く1カ月以上学校を休んだこともあるという篠田さん。「鍛えなければ」と、中学では水泳部に入部。豊浦高校3年の時には県大会で2位に入賞しますが、全国の壁を感じ、大学ではスイミングクラブでコーチのアルバイトはするものの競技からは離れました。

大学卒業後は、会社員として、全国を転勤する忙しい日々で水泳から遠ざかることに。34歳の時に、家業の割烹料理店を継ぐため下関に戻り、40歳で店主に。自分の時間が持てるようになり「最初に頭に

日々の積み重ね 実り世界の頂点へ

浮かんだのが水泳だった」と振り返ります。大和町にリフレ・スポーツクラブが開業したのを機に「すぐに入会しました。会員番号1番です」。趣味として再開した水泳は生活の一部となり、泳いだ距離を記録するようになりました。

努力を日常にする

年180日以上通い、年間400^キを目標に泳ぎ続けています。1時間で3^キ、ただひたすらに泳ぐ。「特別なトレーニングはしていません。泳ぐことが一番のトレーニングです」。記録帳には、総距離8200^キの数字が。下関からハワイを経て、アメリカ西海岸に迫るスケールです。

「記録を付けると達成感が味わえる。それに、自慢したくなるんですよ」と笑顔。モチベーションの源は、メダルやトロフィーのコレクション。そして「続けることが楽しい」という純粋な思いです。

料理店を切り盛りする傍ら、隙間時間を見つけてはプールへ。「店にいなかったら、プールにいらると言われるくらいです」。



市報×Instagram連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介♡



♡ Q ▼ @888ryuryuyouさん



♡ Q ▼ @yuki.happy.hさん



♡ Q ▼ @miyuki178_photoさん

(上から)

蛸街道西ノ市、勝山地区公園、彦島竹ノ子島町

Can You Guess Where This Is ??

▶近所にできたスィミングクラブの会員番号1番の篠田さん。2年後の世界マスターズ水泳ハンガリー大会に向けて、今日も黙々と泳ぐ。



400m Freestyle Men Summary MASTER 80-84					SUMMARY
RNK	SURNAME & NAME	CAT	CLUB	TIME	GAP
1	SHINODA Tsutomu	80-84	EP	7:05.57	
2	FORMAN Tony	80-84	AQUATIC MASTERS	7:13.37	7.80
3	NOVITSKIY Yaroslav	80-84	NA	7:48.07	42.50
4	RITSCHEL P.	80-84	DESHEIM	7:53.42	47.85
5	KALTENECKER Geza	80-84	AZI	7:55.45	49.88
6	SHABTAY Zeev	80-84	KIM	7:57.78	52.21
7	ISHIDA Masahiko	80-84	NARIMASU	8:16.77	1:11.20
8	READ Michael	80-84	2 SWIM TEAM	8:32.99	1:27.42
9	STEBBING Peter	80-84	VO ALISSI MASTERS	8:44.99	1:39.42

◀2010年スウェーデン大会から世界マスターズ水泳に出場。最初は12位。8回目となる今回、念願の優勝を果たした。



▶世界大会は、ご夫婦での旅も兼ねており、「一緒に観光ができるのも楽しみの一つ」と語る。奥様は、心強い伴走者。

水泳で広がるつながり

篠田さんを支えるのは、年齢や職業を越えて集う地域の仲間。リフレのプールでは、医師や会社員など、多彩な人々と顔を合わせ、「プールに行けば必ず誰かがいる。泳いでいると自然に仲間になっていくんです」。大会では全国

シンガポール大会では、80歳以上の部に出場。「3位以内でメダルを」と臨み、800メートル自由形で銀、200メートル自由形で銅を獲得。「もう十分だと思った」中で臨んだ400メートル自由形でまさかの優勝。「無欲の勝利でした」。驚きと喜びが、今も鮮明に残ります。

各地で再会する顔なじみも多く、励まし合うことが何よりの力に。「水泳のおかげで、心も体も健康でいられる。続けることが生きがいです」。

次の目標は、2年に1回開催の世界マスターズ水泳出場9回目となるハンガリー・ブダペスト、10回目の中国・北京の舞台。「最低でもそこまでは泳ぎたい」と力強く語ります。

篠田さんにとって泳ぐことは、日々を輝かせる生き方そのもの。「年齢は関係ありません。泳ぎたいから泳ぐ。ただそれだけです」。その言葉には、続けることで人生を豊かにしてきた人だけが持つ、揺るぎない強さがありました。

Editor's note

編集後記

◆子どもの学費を工面するため、人生2回目の奨学金を検討中です。書類を読み進めて、手が止まったのは保証人の欄。「親はどうやってお願いしたの?」と記憶を探るも思い出せず。自分は恩知らずだなと反省しつつ、改めて感謝です。20代若者が懸命に働く姿は応援したくなるもので、市の奨学金返還支援は一つの形。下関は海の街…波のように続く支援で、希望(=若者)が下関に集結するといいいな。(に)